

サステナブル経営の取組み

当金庫におけるサステナブル経営の取組み、
TCFD提言に基づく開示事項について
紹介しています。

p14 | サステナブル経営の取組み

サステナブル経営の取組み

地球規模での気候変動の進展、人口増加による食糧不足、先進国における少子高齢化による労働力不足、人権にかかわる問題、そして生物多様性の喪失等、私たちの事業基盤そのものを揺るがしかねない課題が世界規模で急速に進展しています。企業に対する環境・社会課題解決への期待が一層高まっているなか、こうした期待や要請を踏まえた事業運営が、私たちのステークホルダーのみならず求められていると認識しています。

こうした世界的な潮流の変化を捉え、当金庫では、ビジネスを通じて地球レベルの課題に取り組むべく、理事会傘下のサステナブル協議会でサステナブル経営の取組みを協議のうえ実践しています。また、サステナブル経営の統括・推進を担う責任者として、海外と国内2名の役員をCO-CSuO(チーフ・サステナビリ

ティ・オフィサー)として配置しているほか、ダイバーシティ&インクルージョン取組みの統括・推進を担う責任者としてCDO(チーフ・ダイバーシティ・オフィサー)を配置しています。さらに外部有識者の意見をサステナブル経営に反映させるため、サステナビリティ・アドバイザリー・ボードを設置しています。

2021年度に策定した2030年中長期目標を達成するため、具体的な取組みを開始しています。GHG排出量削減に向けて、お客さまと対話を行いながら脱炭素経営に向けた支援、森林組合系統と連携した森林整備によるCO₂吸収量の確保、当金庫拠点等のCO₂排出量削減等、脱炭素社会への貢献に取り組んでいます。また、農林水産業者所得、女性管理者比率向上に向けた取組みも展開しております。サステナブル・ファイナンスについては、約1.5兆円の新規実行を行いました。

2021年度の主な取組状況

GHG排出量削減	サステナブル・ファイナンス										
<ul style="list-style-type: none"> ・ 投融資先の脱炭素経営を後押しするためのソリューション(GHG計測支援)の提供 ・ 気候変動にかかるリスクシナリオ分析等を活用した投融資先とのエンゲージメント実施 ・ 適切な森林整備の実施等による会員と連携したCO₂吸収量確保 ・ 当金庫拠点等のCO₂排出は2021年3月末で▲約37%(2014年3月末対比)の削減 	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #5da5da;"> <th>2021年度 新規実行額</th> <th>中長期 目標*</th> <th>進捗率</th> </tr> <tr> <td style="font-size: 1.2em;">1.5兆円</td> <td style="font-size: 1.2em;">10兆円</td> <td style="font-size: 1.2em;">約15%</td> </tr> </table>	2021年度 新規実行額	中長期 目標*	進捗率	1.5兆円	10兆円	約15%				
2021年度 新規実行額	中長期 目標*	進捗率									
1.5兆円	10兆円	約15%									
<div style="background-color: #d9ead3; padding: 5px; text-align: center;">農林水産業者所得の増加</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担い手に対するコンサルティングの実施 ・ 担い手および食農関連企業に対するバリューチェーン構築支援の展開 	<p style="text-align: center;">※2021~2030年度(10年間)の 新規実行額累計</p> <p>→ 2021年度新規実行額の内訳</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #5da5da; color: white;">市場運用資産等</td> <td style="text-align: right;">0.9兆円</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #5da5da; color: white;">投融資 プロジェクトファイナンス</td> <td style="text-align: right;">0.4兆円</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #5da5da; color: white;">ESGローン</td> <td style="text-align: right;">0.1兆円</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #5da5da; color: white;">調達 グリーンボンド</td> <td style="text-align: right;">0.1兆円</td> </tr> </table>			市場運用資産等	0.9兆円	投融資 プロジェクトファイナンス	0.4兆円	ESGローン	0.1兆円	調達 グリーンボンド	0.1兆円
市場運用資産等	0.9兆円										
投融資 プロジェクトファイナンス	0.4兆円										
ESGローン	0.1兆円										
調達 グリーンボンド	0.1兆円										
<div style="background-color: #d9ead3; padding: 5px; text-align: center;">女性管理者比率</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年3月末の女性管理者比率は約6.6%の実績 ・ 2021年度新設のCDOの主導のもと、目標に向けた取組みを推進 											

イニシアティブへの参画

<ul style="list-style-type: none"> ・ 21世紀金融行動原則 ・ 国連グローバル・コンパクト ・ CDP ・ 赤道原則 ・ TCFD ・ 気候変動イニシアティブ ・ UNEP FI ・ PRB ・ PCAF ・ AIGCC ・ Climate Action 100+ ・ TNFD Forum 	   	  	  
---	--	--	---

サステナブル経営の取組み

■ 気候変動への対応 (TCFD提言に基づく開示)

当金庫の基盤となる農林水産業は、気候変動による負の影響を被りうると同時に、気候変動を増幅させる潜在的可能性を有している産業でもあります。気候変動への対応は、当金庫の使命である農林水産業の発展に貢献するものであり、当金庫は、気候変動に関連す

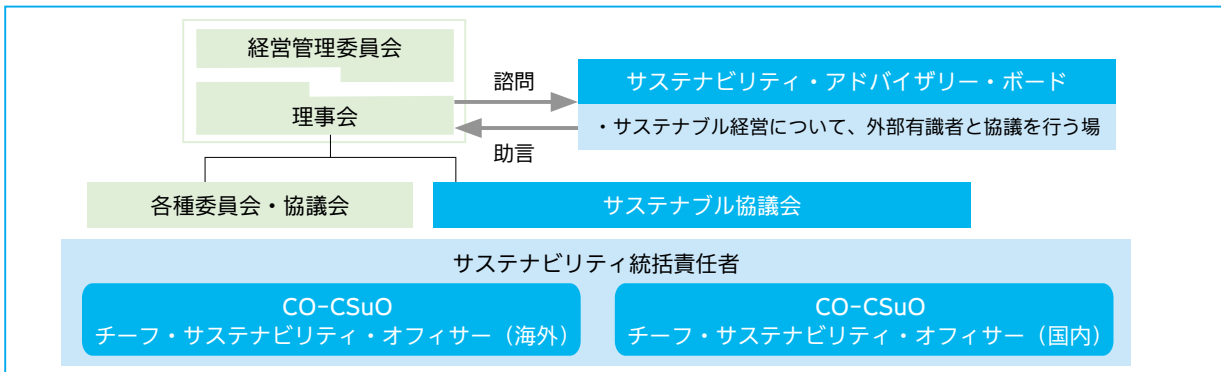
る機会とリスクの観点に着目し、事業活動を通じて緩和と適応に貢献する取組みを進めています。その一環として、気候変動が当金庫の事業に与える影響、リスクに対して適切に対応し、TCFDの提言を踏まえた取組みと開示の拡充に取り組んでいます。

ガバナンス

当金庫では、気候変動を含む環境・社会課題にかかるとの対応方針・取組状況は理事会傘下のサステナブル協議会にて定期的に協議のうえ、テーマに応じて経営管理委員会および理事会で付議・報告しています。

また、気候変動を含む環境・社会課題解決に向け取組みの推進を行うサステナビリティ統括責任者とし

て、CO-CSuO(チーフ・サステナビリティ・オフィサー)を設置しています。さらに、理事会の諮問機関としてサステナビリティ・アドバイザリー・ボードを設置し、外部有識者の意見を取り入れながらサステナブル経営の高度化を図っています。



戦略

事業活動を通じて気候変動に関連する機会とリスクに対応する取組みを進めています。

● 気候変動に関連する機会

気候変動は将来起きるリスクであると同時に、その緩和・適応に向けた対応はビジネス機会でもあります。当金庫では脱炭素社会への移行をファイナンスの側面からサポートする取組みを進めています。

【取組み事例】

- サステナブル・ファイナンスを通じた取組み
 - インパクト投資プログラム
 - 再生可能エネルギー関連のプロジェクトファイナンス
 - 環境課題解決に向けたESGローン
- 森林・林業の持続可能性確保に向けた取組み
 - 森林の二酸化炭素吸収機能を継続・活発化させるための取組み

● 気候変動に関連するリスク

脱炭素社会や気候変動に伴う2つのリスクについて、統合的リスク管理の枠組みのもと、シナリオ分析等を通じたリスク評価と適切な管理に取り組んでいます。

- 移行リスク: 気候変動の緩和と適応への取組み進展に伴う政策、法規制、技術、市場などの変化の影響を受ける投融資先の信用リスクや座礁資産化リスク

- 物理的リスク: 気候変動に伴う自然災害や異常気象による当金庫および投融資先の資産に対する物理的な被害を通じて財務毀損が増大するリスク

当金庫で認識する気候変動リスク

リスク	細分類	主なリスク	時間軸
移行リスク	政策 法務 技術 市場	<ul style="list-style-type: none"> ● 2°C目標達成に向けた規制対応が投融資先のビジネスモデルや業績に影響を及ぼすことによる与信コストの増加 ● 市場が脱炭素化を志向することで商品・サービスの需給関係、企業業績が変化することによる与信コストの増加 	中・長期
	政策	● 国際的な気候変動への対応強化要請の高まりを踏まえた規制変更	短期
	評判	● 気候変動に対する取組みや情報開示が不十分とされるリスク	短期
物理的リスク	急性 慢性	<ul style="list-style-type: none"> ● 台風・豪雨等の自然災害に伴う投融資先の事業停滞による業績悪化や、不動産等の担保価値の毀損を通じた与信コストの増加 ● 気候変動が土地利用、第一次産業の生産性等に影響を及ぼすリスク ● 異常気象による当金庫資産の損傷に伴う事業継続への影響 	短・中・長期

● シナリオ分析

当金庫では、2020年度に移行リスクに関する与信ポートフォリオへの財務的なインパクトの評価を実施しました。分析対象セクターは、当金庫にとって影響が大きい「電力」「石油・ガス・石炭」のほか、食農バリューチェーンを構築する「食品・農業」「飲料」を選定しています。分析対象は、投融資ポートフォリオの特性を踏まえ国内外の融資先に加え、社債投資先としています。分析の結果、与信ポートフォリオに与える影響については限定的と評価しています。分析結果については、投融資先との建設的な対話（エンゲージメント）に活用していきます。

また、2021年度には新たに物理的リスクの急性リスクと慢性リスクについてシナリオ分析を行いました。急性リスクについては、近年大きな被害が発生し

ている洪水被害の分析を実施し、国内融資先の国内重要拠点に与える影響に加えて、当金庫が差入れを受けている不動産担保への影響について分析しました。分析の結果、与信ポートフォリオに与える影響については限定的と評価しています。

慢性リスクについては、農林水産業を基盤とする当金庫にとって重要な農業セクターへの影響分析を実施しました。分析対象品目は、稲作、畜産（生乳、肉牛）を選定し、気温上昇を含む気候変動が生産者収入に与える影響と適応策について分析しています。本分析は生産者の収入への影響分析であり、当金庫の財務への影響分析にあたっては、多様かつ複雑な影響経路があるなかで、蓋然性の高い経路の特定等を進める必要があり、分析モデルの構築には更なる検討が必要と認識しています。

リスク管理

気候変動を含む環境・社会にかかるリスク管理の枠組みを導入しています。環境・社会課題解決に向けた基本方針である環境方針・人権方針のもと、気候変動を含む環境・社会への負の影響が懸念されるセクターについて、投融資における環境・社会配慮の取組み方針を定めています。また、大規模な開発プロジェクト案件については、赤道原則に基づく対応を行っています。

当金庫ではリスクアペタイトフレームワーク（規律あるリスクテイクと、リスク・リターン最適化につ

なげる経営管理の枠組み）に基づき、経営環境やリスク認識を踏まえたトップリスク（今後、特に留意すべきリスク事象）を選定し、想定する将来シナリオの分析を行っています。当金庫ではトップリスクとして「サステナブル経営を取り巻く急速な環境変化」を選定しており、気候変動・生物多様性などサステナビリティの多様なテーマに関する急速な環境変化が、ポートフォリオの座礁資産化や風水害等による農林水産業への悪影響等、当金庫の持続可能性に甚大な影響を及ぼす可能性があるとして認識しています。

指標・目標

当金庫では2030年中長期目標を定め、着実に取組みを進めています。

- Scope1・2: 当金庫拠点等のCO₂排出量について、2030年までに▲50%（2013年対比）を目指します。

2021年度
実績

（単位:tCO₂）

計測時点	2014年3月末	2021年3月末
Scope1	2,200	1,256
Scope2	30,200	19,057
合計	32,400	20,313 (▲37%)

- Scope3: 投融資先のGHG排出量について、2030年までに▲50%（2013年対比）を目指します。

2021年度
実績

投融資ポートフォリオの広範なアセットクラスを対象としてGHG排出量の現状把握に取り組み、事業法人向けの貸出金・社債・株式を対象としてGHG排出量の試算を実施しました。

- サステナブル・ファイナンスを2030年までに10兆円新規実行します。

2021年度
実績

2021年度の新規実行額は1.5兆円で、進捗率15%となりました。

詳しくは「サステナビリティ報告書2022」をご覧ください。

